『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度の共通テストは、新課程の学習指導要領の下で学習した高校生が受験した最初の試験となった。歴史科目は、「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲が用意された。そのうち、「歴史総合」は第1問，第2問の二つが出題され，それぞれが，『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』との共通問題となっている。今年度は，「歴史総合」の第1問が『歴史総合，日本史探究』の，第2問が『歴史総合，世界史探究』の，それぞれ第1問となった。

また，「歴史総合」の追・再試験においては，本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け，出題方針，内容及び難易度等について考察する。なお，評価にあたっては，報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

(1) 評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和7年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	10	(62.5 %)
主に思考・判断を評価するもの	6	(37.5 %)
合 計	16	(100 %)
(うち概念的理解)	4	(25.0 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和7年度	
	出題数	(出題率)
政治史	10	(62.5 %)
社会経済史	2	(12.5 %)
文化史	1	(6.3 %)
複数分野に関わる	3	(18.8 %)
合 計	16	(100.0 %)

* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は，当外部評価分科会の判断による。

(3) 地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和7年度	
	出題数	(出題率)
東アジア（日本を含む）	8	(50.0 %)
その他アジア	0	(0.0 %)
西アジア・アフリカ	0	(0.0 %)
西欧・北米	2	(12.5 %)
東欧・ロシア	0	(0.0 %)
その他地域	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	6	(37.5 %)
合 計	16	(100.0 %)

(4) テーマ別の出題数・出題率

年度・出題数 テーマ	令和7年度	
	出題数	(出題率)
近代化	5	(31.3 %)
大衆化と国際社会の変容	4	(25.0 %)
グローバル化	6	(37.5 %)
その他テーマ	0	(0.0 %)
複数テーマに関わる	1	(6.3 %)
合 計	16	(100.0 %)

第1問 日常生活における時間概念をテーマにした班ごとの資料収集について

問1 19世紀のイギリスやフランスの労働時間のメモから読み取れる事柄や背景にある産業革命について，正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 1955年以降の女性雇用者に関するグラフから読み取れる事柄を述べた文の正誤の組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。資料自体は大変興味深い，解答に際して高度経済成長期やバブル経済の時期を問うものとなっている点が惜まれる。ジェンダー＝ギャップを考察させるなど，設問の工夫によって資料をより生かせる可能性がある。

問3 日本での太陽暦の導入の理由や背景について，最も適当な文を選択する問題。日本の近代化についての概念的理解を求める，知識・技能を問う問題。

問4 新たに追加された標準時子午線について、地図中から最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う良問。下線部や問題文における日本の帝国主義的な領土拡張という前提を、地図上で具象化するものとなっており、地図の使い方に優れている。

問5 メモ中の二つの空欄に入る文の組合せについて、正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。誤答選択肢も時代性を問うものにするなど、選択肢を工夫することで、よりよい問題になった可能性がある。

問6 イギリスにおける対日戦勝記念日のパネルから読み取れる事柄や、その歴史的背景として考えられる事柄について、最も適当な文を選択する問題。第二次世界大戦後の国際情勢に関する知識を基にイギリス連邦についての概念的な理解が求められる、知識・技能を問う問題。

問7 各国の対日戦勝記念日と朝鮮語で書かれた新聞の内容のメモから考えられる事柄について、最も適当な文を選択する問題。メモの内容と対日戦勝記念日の表から読み取った情報と、冷戦期における朝鮮半島情勢に関する知識を統合し、新聞の発行場所を推察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問8 沖縄県の「慰霊の日」に関わる事柄のノートに対して述べた文について、正しいものの組合せを選択する問題。二つの資料の精緻な読み解きが求められる、知識・技能を問う良問。

第2問 「国際イベントとその影響」という主題に対する、発表準備について

問1 会話文中の空欄に入る語句と文との組合せについて、正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。誤答選択肢に改善の余地はあるものの、会話文を丁寧に読み取り、まとめることが求められている点に、読み取りの技能を評価する工夫がみられる。

問2 ポール＝ルロワボーリユーが書いた資料から読み取れる内容と、資料中下線部と同様の考えや背景があると推察される歴史的な事象について、最も適当なものの組合せを選択する問題。資料を丁寧に読み解き得られた情報を概念化し、他の歴史の事象を条件に照らし合わせて類型化する、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問3 文中の空欄に入る文について、最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。選択肢全てが正命題であり、会話文の文脈から論理整合性に基いて考察することで正答に至る。

問4 満洲で20世紀前半に起こった出来事について、古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。満洲における日本の帝国主義政策の展開から考察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問5 万国博覧会の延期をめぐる海外の反響を紹介した新聞記事から読み取れる事柄やその背景に関して述べた文について、正しいものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。資料を丁寧に読み取った上で、戦争という時代の画期から解答を選択するという意図は良いが、賛成・反対それぞれの立場に着目させ、理由を考察させるなど、問い立ての工夫により、興味深い資料をより生かした問題になる可能性があった。

問6 グラフから読み取れる変化とその要因の一つとして考えられる事柄について、最も適当な組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。グラフの読み取りと、グラフの変化の背景を時代の画期と照らし合わせて考察することで正答に至る。

問7 パネル中の二つの空欄に入る文の組合せについて、正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問8 パネルに加える国際関係の内容について、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。中間の構成を踏まえ、グラフから読み取った情報を基に原因となった背景を考察してパネル化させるなど、問いの切り口を工夫することで、思考力・判断力・表現力等を評価す

る、よりよい問題になった可能性がある。

3 分量・程度

本試験と同様、大問数は2問構成で、設問数は計16問であった。分量は試験時間に見合った適切なものであり、難易度も大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適切であったと考える。歴史の用語や年号を詳細に覚えているかどうかよりも、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかどうかや、資料の読み取りの技能、資料から読み取った情報や持っている知識を基に考察する力を評価しようという意図が読み取れた。これは、歴史総合の科目の趣旨に合致したものと考えられる。これからも、今年度のような受験者の思考を促す問題の出題をお願いしたい。今年度の出題における分量は適正と感じたが、概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題においては、問題のテキスト量が増加しがちな傾向があるので、必要最小限のテキスト量での出題となるよう精査を引き続きお願いしたい。

知識・技能の出題については、**104**は特に地図を用いる技能の評価において工夫がみられた問題であった。地図は、都市や国の場所だけでなく、出題した時代の時代性を表現することも可能であり、歴史を学ぶ上で地理的認識は不可欠であることから、今後ともこのような出題が望まれる。

108は文字資料の読み解きにおいて、工夫された問題であった。沖縄における「慰霊の日」と「屈辱の日」に関する二つのノートを比較しながら、精緻に資料を読み取ることが求められた。「資料を読み解いて、情報をまとめる」技能を評価する工夫された問題を、今後とも期待したい。

思考力・判断力・表現力等の問題としては、**110**及び**111**が特に優れていると考える。**110**は資料で書かれている事象と同じ構造を持った事象を選択する、類型化の問題であった。歴史の事象は、この問題のように概念的理解に基づくことで、類比や対比が可能になる。観点を直接示すのではなく、資料中で示していることもまた評価できる点である。**111**は、論理整合性に基づいた思考ができているかどうかを評価する面で優れた問題である。選択肢全てが正命題であり、年号の知識のみで解答できるものではないというところにも工夫がみられる。問題文の文脈から、1920年代を国際協調の時代であると性格付けた上で、それを象徴する不戦条約を選択していくものである。与えられた文脈から論理整合性に基づき推察していく問題は、思考力・判断力・表現力等を評価する問題として適したものである。今後とも、このような工夫された問題の出題をお願いしたい。

一方で、**102** **113** **116**は現状でも問題として成立しているが、設問の設定や選択肢の工夫等によって、興味深い資料を生かしたより良い問題になった可能性がある。是非とも、受験者の概念的理解や、概念的理解に至る思考のプロセスをどう評価するか、という視点からより良い問題への挑戦をお願いしたい。

4 表現・形式

二つの大問を通して、資料に基づく問題やリード文を用いた問題が出題されており、授業中のやりとりや探究的な活動など、多様な形式での出題がみられた。ほとんどの資料が受験者にとって初見のものであったことは、注目に値するが、本試験との比較で考えると、本年度の「歴史総合」追・再試験の問題で使用された資料については、地図資料が一つ、統計資料が二つであり、それ以外は全て文字資料で占められていることが、資料の多様性という観点から今後の改善点としてあげられる。受験者は、リード文や資料を丁寧に読み解き、読み取った情報と知識を照らし合わせて考察することが求められている。歴史総合という科目が、歴史の学び方を学ぶ科目としての側面を持っていることを考えると、初見の資料を歴史の知識を基に読み解く力は、歴史総合の学力を評価する問題として好ましいと考える。

大問ごとのテーマが、「時間概念」「国際イベント」と、生徒にとって身近なテーマが設定されているのも、歴史総合の理念を大いに反映した工夫であると感じた。特に第1問は、学習指導要領内容A「歴史の扉」を意識した大問となっている。授業者として生徒が歴史を「自分ごと」化していくためのテーマ設定の重要性について、改めて考えさせられ大いに授業作りの参考となった。これからも、歴史の見方についての新たな切り口を提示する作題をお願いしたい。

二つの大問ともに、授業の場を設定して、それぞれ共通した主題の下に、資料収集や発表準備という場面設定がなされている。歴史総合の授業構成を意識した出題で好感が持てるが、強いて言えば、最後にその主題を通して学習したことで、どのような知見が得られるのか、単元のまとめとしての出題があると、なお良かったように感じる。第2問においては、大問の設定自体が大変良かったので、最後に全体を総括する問題を出題するとより統一性のとれたものになったであろう。特に第2問Cは、扱うトピックをより生かすために、「冷戦構造→冷戦構造の中のアジア→アジアの中の日本」という視点を意識して作題すると、より歴史総合の意図を反映する問題になったと思われる。歴史の学びにおいては、複数の具体的・個別的知識を止揚することで概念的な理解を得て、いくつかの概念を用いて考察することで、より抽象度の高い高次の概念的理解に至るものであり、概念は構造化されている。授業者は、授業を構成する際に、学びの成果としての概念的理解から逆算して考えるが、学習者は学習して得た知見を基に歴史的な見方・考え方を働かせることで、帰納法的に高次の概念的理解に達するものと想定される。大きなテーマ設定の下、中間ごとでの学びが一段階メタな次元でどのような概念的理解を生み出すのか、共通テストを解答しながら、学びのプロセスをたどるような出題を期待したい。

5 ま と め（総括的な評価）

本年が初の出題となった「歴史総合」であるが、全体を通じて概念的理解や資料から必要な情報を読み取る技能に加え、時代の特徴を基に文脈から論理整合性に基づいて判断したり事象の特徴を基に類型を考察させたりするような、思考力・判断力・表現力等を問う設問がバランス良く配置されており、歴史総合の科目の目標及び共通テストの問題作成方針を具現化できていたといえるのではないだろうか。歴史総合においては、歴史的な文脈や時代性を通して理解することや、知識を基に資料を読み解くことで、既存の知識を新しい角度から捉え直すことが求められるのだという、作題者からのメッセージが伝わってくる出題であった。我々授業者は作題者からのメッセージを十分理解し、授業実践を通して生徒に還元していかなければならないということを、強く感じさせられた。

沖縄県における「慰霊の日」と「屈辱の日」をテーマにした108では、受験者は知識を基に資料を丁寧に読み取ることで、新たな気付きを得、国民国家概念を問い直したのではないだろうか。同様に、110では、資料の中で設定された観点に基づき歴史事象を類型化して考察することが求められていた。生徒はこの問題を通して、歴史的な事象に新しい意味を見出すことができたであろう。歴史の学びにおいては、事象を多面的・多角的に考察することで、文脈に応じた様々な意味付けを生徒自身がしていくことが求められる。受験者が知的な好奇心を刺激されるような良問の作題をこれからもお願いしたい。

新しい科目での作題ということで、前例がない中、作題者の方々は大きな御苦勞をされたことと思う。様々な困難に直面しつつ、膨大なエネルギーを費やして、歴史総合たるにふさわしい問題を作成していただいた作問委員の方々に、心より感謝を申し上げたい。